

## 第2回専門部会 論点整理

## 1. 児童養護施設の小規模化について

## (1) サポート体制の重要性（孤立化の防止）

- ①ユニットリーダー、チーム同士の十分な意見交換とか共通理解（チームワーク）等が重要
- ②職員同士の理解
  - ・・・本園から離れていることによるケアの柔軟性についての理解が得られないことがある
- ③ホーム間で違いがあるということは非常に重要
  - ・・・子供の権利保障等で格差が生じないように連携・助言・情報の共有化が必要
- ④重層的なシステムの構築の重要性
  - ・・・本園とグループホーム、専門職を含めた管理者チームなど
- ⑤メンタル面でのサポート

## (2) 人員体制

- ①専門機能強化型の児童養護施設という形で強化をしたが、それでも十分に対応できていない。
- ②コアタイム（学校から帰ってきてから就寝までの間）時間における複数の人員体制

## (3) 人材育成

- ①専門性の獲得
- ②グループホームのリーダー的人材の育成
- ③効果的な育成方法の検討・・・育成方法を誤るとケアの質の低下につながる
- ④職員の定着

## (4) 児童の心理的な支援

- ①距離の問題と環境の問題
  - ・・・家庭と同じような生活状況の中でトラウマのケアなどは扱いにくい

## (5) 今後の方向性

- ①施設長、職員とともにグループホーム化の更なる促進
- ②ケアの内容、質をどう支えるのかということの理念・方法論の共有化も大きな課題

## 2. 専門機能強化型児童養護施設について

## (1) 専門職の役割

- ①社会的養護の特殊性というところをしっかりと認識
- ②スーパービジョンの体制がなかなか不十分の中、精神科医・心理職とともにコンサルテーションの役目を果たしている
- ③精神科医のかかわりというのが絶対的に児童養護施設には必要
- ④心理職の働き方
  - ・・・子供のアセスメントをもとに支援の方針検討過程に絡んでいくのが非常に重要

## (2) 施設長の役割

- ①施設長のミッション・意思決定・処遇決定を行うということの重要性
- ②施設長の専門性の問題
- ③マネジメントする役割の重要性

## (3) 施設職員の役割

- ①問題性の本質・背景の多角的な分析をするという力
- ②基幹的職員、主任のマネジメント力（最終的には施設長）
- ③職員の支援者支援というところの体制整備の再検討

## (4) 人材育成

- ①研修体制の強化

## (5) その他

- ①連携型専門ケア機能モデル事業の検討状況について
- ②精神科医療ケアについて（救急医療の東京ルール）
  - ・・・二次救急とが連携して、各病院に当番で入院できる制度
- ③精神科医師の確保について